

平成 28 年度国内派遣事業（報告 その 2）

平成 28 年度国内派遣事業参加者報告（大学訪問編）

研修の 2 日目は大学訪問です。仮屋・松平の女性二人は、まず東京大学へ行きました。その後、お茶の水女子大学へ移動しました。午後からは別行動で、仮屋は慶應義塾大学・青山学院大学を見学しました。松平は、東京外国語大学へ行きました。山口・吉村の男性二人は、まず慶應義塾大学へ行き、次に東京大学へ移動しました。午後から山口は東京工業大学へ、吉村は一橋大学へそれぞれ別れて見学に行きました。

各大学へは、6 人の大学在学中の先輩が案内してくれました。以下、各大学の様子をまとめました。

東京大学では、仮屋・松平はキャンパス内を散策した後、法学部の学部説明会に参加しました。たくさんの方が参加しており、受験生として刺激を受けたいい機会でした。山口は薬学部のビデオ説明会に参加しました。内容は難しいでしたが分かりやすくとても興味深い説明でした。歴史を感じるような校舎のなかで最先端の科学研究がなされているというギャップが魅力的であるなど、校舎はとにかくカッコいいという印象でした。吉村は経済学部の説明会に参加しました。



お茶の水女子大学では、同窓生のお茶の水大学教授と在学中の先輩にキャンパス内を案内して頂きました。一番驚いたのは、図書室の充実度及びたくさんの自習スペースです。生徒が学習しやすい大学だと感じました。

東京外国語大学は、敷地が広く、緑が多かったです。丘のようなものがあり、そこに集まって BBQ をする風習もあるそうで、サークル内の親睦を深められます。また、留学生の割合が在校生の半分ということで、他国の文化を理解し、お互いに共有することもでき、もちろん実際にコミュニケーションをとることで自らの語力も向上させることができます。

青山学院大学は、街の中にある大学ということで大学生がおしゃれなイメージが強く、キャンパス内も伝統と近代を融合させた建物がたくさんあり、設備も整っていました。

慶應義塾大学は、自然に囲まれた敷地の中に、赤レンガ造りの建物が歴史を感じさせました。海外留学や地方の学生の獲得に力を入れていて、様々な分野において、日本のリーダーとなる人材を育てることのできる大学だと思いました。

東京工業大学は、キャンパス内に自然があり広く、研究をするにはとても良い環境の大学だなと感じました。春には桜、秋にはイチョウがキャンパス内を色鮮やかにするそうです。図書館と自習室のある校舎が特にすばらしいと思いました。同行してくださった先輩は、数学がとても秀でていて、先輩みたいな計算力を身に付けたいと思いました。



一橋大学は、国立駅から徒歩で 10 分ほどの場所にあり、都心から離れていて自然が多い場所に立地していました。9 月にイベントがあるらしく、手作りの看板が沢山あり、そのどれもが趣向を凝らした作品のようで、センスがありました。建物は歴史を感じさせ立派でした。



食事をしながら、年の近い先輩方とは、アルバイトの話や部活の話で盛り上がりました。皆さんが共通して言っていたのは、「東京は何でもあるから楽しい」ということでした。その言葉の通り、大学生活を存分に楽しむ皆さんの話を聞いていると、受験のやる気も湧いてきました。

関東龍門会の皆さんのお陰で、3 日間の研修がとても充実し、あっという間に終わりました。この研修で体験したことが、自分のこれからの人生に大いに役に立つと思います。残りの高校生活を充実させ、また、体験したことを在校生にも還元していきたいと思います。